



宮城県石巻市三輪田の陶芸家亀山英児さん(51)は、ものづくりが好きで陶芸を始めたんだ。どんなことに興味がある子どもだったんだろう？

◇

小さい頃から工作が好きでした。小学校の夏休みの自由研究も進んで取り組み、木で船の模型を作った記憶があります。小中高を通じて夢中になったのはサッカーです。陶芸と同じで技術を高めるのが好きでした。空中でボールをまたぐリフティングの技も繰り返し返し練習しました。

高校卒業後は知り合いが経営するタイの木工会社を手伝いに行き、家具を作りました。以前から

石巻の「青」作品に生かす

亀山 英児さん (51歳・陶芸家)



亀山さんが制作(せいさく)した青色の作品

訪れたのが仙台市泉区の堤焼乾馬窯でした。4代針生乾馬氏(2016年に88歳で死去)に師事し、師匠から「見えない所ほど丁寧に」と言われたのを今も思い出します。

2004年に独立し、三輪田窯を始めました。多くの作品に使う青色は、釉薬の調合を変えるなど試作を重ねる中で偶然出てきた色です。

「青が好きなんです。うこともあり、宮城県でものづくりの仕事を探しているとき、縁あって

ありません。石巻で暮らしているのと目に入ってくるのが空の青さであり、海の青さ、川の青さでした。青色がだんだん自分の体になじみ、それが作品にも生かされていったような感じです。

陶芸は出来上がった作品を見て、良くできた点や改善点を次の作品に生かしていく仕事です。

「コップの取っ手は何でこの角度なんだろう？」などと、ちょっとした疑問を持つことも大切です。一つ疑問が湧いて調べると、いろんな気づきがあります。

「こつこつと一つ一つの工程を積み重ねる。そういったことに夢中になれる人に向いている仕事だと思っています。」



陶芸の魅力(みりょく)を語る亀山さん(9月2日、宮城県石巻市三輪田)

かめやま・えいじ 神奈川県出身。同県横須賀高卒。2004年、宮城県石巻市で三輪田窯を開窯。粘土や釉薬に地元産の材料を使う。

学力UPの「カギ」は国語力!!

河北新報のコラム「河北春秋」を活用した学習法をご紹介します。ベテラン記者が執筆した文章を読むことで、豊かな言葉や表現が身につきます。また旬の話題や時事問題にも強くなります。

河北春秋 3 ステップ

STEP 1 基礎力アップ

書き写す

「河北春秋」の文字数は約500字。書き写すことで、作文力や読解力、漢字力といった「国語力」が向上します。また、分からない単語を調べると語彙力もアップします。

STEP 2 論説文対策

100字で要約する

「河北春秋」の要約は論説文対策にピッタリ。読み解いて分かりやすく伝える文章の練習になります。

STEP 3 小説問題対策

自分の意見や感想を書く

自分の考えを50字以内で書きましょう。小説問題は文章の行間を読み、自分の考えを制限字数内で簡潔にまとめる練習が役立ちます。

チョイ読みで時事力UP

入試では、新聞記事を使った出題が増加傾向。新聞をめくり「見出しだけ」チェックしましょう。世の中の動きを効率よく知ることができます。

「河北春秋」はここ!

新聞を
活用して
をつけよう!

まずは1週間
お試しください

ご希望の方に、「河北春秋書き写し1週間お試し版」をお届けします。また、河北新報をお読みでない場合は、新聞も1週間お届けします。右の二次元コードより申し込みください。



●ご購入の
お申し込みは...

フリーダイヤル

オーク ミ ナ ヨ ム

0120-09-3746

受付 7:00~19:00



お問い合わせ 河北新報社 販売部 (平日10:00~17:00)

TEL.022-211-1302 FAX.022-211-1188

※お申込みいただきました個人情報は、弊社と河北新報販売店で適切に管理し、商品の発送、各種ご連絡・ご案内に利用させていただきます。河北新報社のプライバシーポリシー(個人情報保護方針) <https://np.kahoku.co.jp/privacy.html>をご確認ください。